食育事業取組報告書（紫雲寺小学校）

食育活動区分	（該当するものを□で囲む） 育てる・作る・食べる・返す	実施年月日	令和4年5月16日～11月5日
教科名	総合的な学習の時間	指導者	第5学年担任 村竹　繁
単元名	発見！お米の可能性		
ねらい	米作りに関わる活動を通して、食糧を生産する苦労・工夫・喜びを実感するとともに、米文化の多様性に気付いたり、米作りと自分たちとを結びつけたりしながら、生活を見直していこうとする意欲を高める。		

児童・生徒の活動	支援・指導上の留意点	資料
1　活動の見通しをもつ（4・5月） 2　紫米を育てる（5～10月） 3　米作りに挑戦しよう「田植え」（5月） 4　米作りに挑戦しよう「調べ学習」（5・6月） 5　米作りに挑戦しよう「観察」（7月） 6　米作りに挑戦しよう「案山子作り」（9月） 7　米作りに挑戦しよう「稲刈り・脱穀」（10月） 8　米作りに挑戦しよう「調理実習」（10月） 9　米作りに挑戦しよう「販売」（11月） 	・日本の農業や食糧生産が抱える課題を提示し、学習の必要性を理解させた上で、興味関心に応じて自分のめあてを持たせた。 ・紫米栽培を行っている農家（保護者）を招き、紫米栽培の苦労・工夫・栽培法・可能性を学び、バケツ栽培を開始した。 ・JA職員・地域の稲作農家の協力を得て実施した。 ・社会科学習と関連させ、米作りに関するテーマを決めて調べ学習を進め、米作りに関する知識や思いを表現した。 ・観察し、田植え直後からの生長や変化を記録としてまとめたり、理科学習と関連させ、周囲の生態系の調査も行った。 ・鳥獣被害の増加を問題提起し、「対策は？」をテーマに協議させ、案山子作りという具体的な行動に移すようにさせた。 ・学校に保管されている足踏み脱穀機を使い、昔の農業の大変さを身をもって実感させた。 ・家庭科の調理実習として、ガス台と鍋を使って白米を炊き、会食した。 ・文化祭の参観に訪れた保護者を対象に米販売を行い、小売りや販売等の仕事を体験させるようにした。 	

成果と課題	【成果】 ・「おいしいご飯が食べたい。」「昔の米作りをやってみたい。」等自分なりのめあてを持たせて取り組ませることで、自分事としてとらえさせることができた。食への興味関心が高まったことで、給食の残量が激減した。 【課題】 ・新型感染症禍ということで、マスクを着用したままの田植え・稲刈り体験となった。何事も無く無事に終えたが、体調変化には特段の配慮が求められる。
家庭・地域との連携	・JA北越後、地域の稲作農家、地域の紫米農家、保護者の協力を得ることができた。農業に携わる方々から、直接様々な経験・思い・願いを聞く機会に恵まれ、農業と自分との距離を縮めることができたように感じた。 ・自宅が農家の家庭からは「我が子の、農業への関心が高まった。」、農家ではない家庭からは「家では経験させてやれないので、学校で担ってもらえて有り難い。」と好評を得た。